

平成30年度 行政評価表:観光戦略課

【Plan】計画 / 【Do】実施																	【Check】評価 / 【Action】改善														
施策名	事業名	事業・取組概要	事業評価の活動指標(目標・実績)									事業評価の成果指標(目標・実績)						H29年度		H30年度		事業成果の評価		予算・コストの評価		見直しの方向性(担当者評価)					
			指標名等			H29年度			H30年度			指標名等			H29年度			H30年度			決算額(千円)	予算額(千円)	決算額(千円)	成果向上余地はあるか	評価の理由	コスト削減余地はあるか	事業評価	1次評価(担当者評価)		2次評価	
			指標	単位	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	指標	単位	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	事業評価	評価の理由								R2年度予算要求の方向性	所屬長評価		
観光の振興	観光PR事業	西九州自動車道の延伸を見据え、様々なメディアを活用した情報発信、旅行会社エージェントへの営業など、総合的な観光宣伝や営業展開を行い、福岡都市圏等からの誘客を図る。	旅行エージェントへの訪問件数	件	25	41	164%	25	25	100%	旅行商品化数	企画	25	19	76%	25	11	44%	2,504	4,249	3,830	低	現体制で取りうる最大限のPR活動を展開していることから、コストのみの投入では成果の向上は低いが、併せて人的面で強化(観光協会との連携、人員増など)により成果の向上が期待される。	なし	現状のコストは必要最低限のレベルであり、削減すれば成果の低下につながる。	拡大	現状の事業を引き続き展開しつつ、さらに効果のある手法を探っていく必要がある。	旅費及び広告(PR)関係で増額して要求する予定である。	拡大	交流人口及び観光消費額の拡大のためには、都市圏へ向けたメディアを活用した情報発信や旅行エージェントへの営業活動がさらに重要であり、今後も力を注ぐべき事業であると考え。	
観光の振興	観光振興団体支援事業	伊万里市観光協会や伊万里市物産観光振興協議会、伊万里市観光ボランティアガイドの会などの観光振興団体の活動に対する支援を行う。	補助金を支出する件数	件	5	5	100%	5	5	100%	観光協会での観光客取扱件数	人	35,000	25,308	72%	35,000	42,679	122%	13,385	17,360	17,360	低	さらなるコストを投入すれば観光と物産のPRを大規模に図ることが可能となるが、短期的には成果指標への影響は少ない。	なし	現在の補助金については、必要最小限の額を有効に活用されている状況にあり、これ以上のコスト削減の余地はない。	拡大	官民一体となり、関係団体と協働して観光振興に取り組んでいく必要がある。	一社化した観光協会の人員体制を見越した補助額を要求する予定である。	拡大	観光振興は、官民が連携し、オール伊万里で観光振興を取り組むことが重要であり、各観光振興団体への補助は今後も必要と考える。特に、観光協会については、観光行政の共同の推進者としての体制を強化するべきと考える。	
観光の振興	国際アマチュア陶芸展開催支援事業	国際アマチュア陶芸展伊万里の開催に対する支援を行う。春の薫り市の開催に合わせ、焼物の里「伊万里」から広く世界のアマチュア陶芸家に呼びかけ、3右衛門(14代今泉今右衛門、14代中里太郎右衛門、15代酒井田柿右衛門)を含めた審査員により厳正な審査を行う。	ダイレクトメールの発送件数	件	1,000	1,001	100%	1,000	976	98%	出展点数	点	350	356	102%	350	330	94%	550	550	550	低	出展数は減少し、現在の方法では限界がある。仮にさらなるコストを投入したとしても、出展数の増加につながる方法を見出すのは難しい。	なし	陶芸展開催のための必要最小限の予算規模であり、これ以上のコスト削減は困難である。	縮小	当該陶芸展開催を通して、焼物の里「伊万里」を広くPRしたいところがあるが、出展数の減少等により事業の存続意味が薄れてきている。	事業廃止の予定である。	縮小	中里太郎右衛門先生、今泉今右衛門先生、酒井田柿右衛門先生、いわゆる『佐賀の三右衛門』揃い踏みによる厳正な審査を行う陶芸展は他に類を見ないが、出展数の減少等の現状を見ると、窯業の振興、観光の振興の両面から検討を重ねても事業を存続させることは難しいと考える。	
観光の振興	観光基盤関連施設整備事業	西九州自動車道の延伸に伴い福岡都市圏からのさらなる誘客が見込まれるなか、市境にある既存歓迎広告塔の塗り直し等を行い、観光客の受け入れ体制の整備を行う。	観光案内板等の設置	箇所	1	2	200%	1	0	0%	観光案内板等の補修	箇所	1	3	300%	1	1	100%	2,891	333	333	なし	当事業は既存の歓迎広告塔の補修を主な目的としていることから、さらなるコストを投入したとしても、これ以上の成果向上余地はない。	なし	競争入札により施工業者を決定していることから、コスト削減の余地はない。	休止	市場の歓迎広告塔の老朽化対策は一旦完了した。	突発的な故障等には対応(補正等)しなければならないが、歓迎広告看板補修は完了したため、予算要求を行わない予定である。	休止	最低限の歓迎広告塔の補修は完了した。当然、新たな補修箇所、新規対応箇所が出てくれば対応する。	
観光の振興	どっちゃん祭り開催支援事業	毎年、8月上旬に開催される「どっちゃん祭り」へ支援を行う。	イベント出演者数	人	1,300	869	67%	1,300	487	37%	来場者数	人	25,000	28,000	112%	25,000	26,000	104%	2,200	2,300	2,300	低	イベントへの来場者・出演者数は、天候をはじめ様々な要因により左右されるため、仮にさらなるコストを投じたとしても成果向上につながることは限らない。	なし	実行委員会方式をとっていることから、現在の開催内容を維持してのコスト削減は困難である。逆に、安全な祭りを実施するためには、全国的な警備費の増、暑さ対策に要する経費の増など、必要経費はさらに大きくなっていく。	改善	コストの上昇を抑制すること、また、祭りの意味について考えなければならぬ。祭りの存続、実施主体、内容等すべてにおいて見直しの時期にきている。	実施主体、要求額等を今の時代に合ったものとなるよう検討し、廃止も含めたところで方向性を導かなければならない。	改善	どっちゃん祭りは、伊万里市民の夏の一大イベントとして定着しているが、伊万里市にとってどのような形のイベントが必要か見極めなければならない。	
観光の振興	いまり秋祭り開催支援事業	毎年10月に開催される「いまり秋祭り」へ支援を行う。	イベント出演者数	人	2,000	1,829	91%	2,000	1,828	91%	来場者数	人	80,000	50,000	63%	80,000	90,000	113%	3,677	4,878	4,868	低	2日間開催を維持するとともに、トントン祭りでの合戦(川落しを含む)が完全再開されれば、来場者数の増加が期待できる。	なし	実行委員会方式を採用しており、現在の開催内容内容を維持してのコスト削減は困難である。	維持	来場者数の増加につながるよう祭りのプログラム内容の見直しを検討する。	例年並みで要求予定である。	維持	いまり秋祭りは、伊万里市民の秋の一大イベントとして定着しており、開催補助は今後も必要と考える。	
観光の振興	市内周遊観光券発行支援事業	「周遊観光券」(食事や土産、体験について補助する観光券)を発行し、さらなる誘客の拡大と周遊促進、市内における観光消費額の増進を図る。	周遊観光券発行冊数	冊	-	-	-	700	800	114%	総発行冊数(利用額換算)に対する利用冊数(実利用の枚数を利用額に換算)の割合	%	-	-	-	70	70	100%	-	3,000	2,495	中	利用する期間の延長、対象店舗の拡大、宿泊施設とのさらなる連携強化により観光券の利用の増加につながる事が可能と考える。	なし	事業成果を向上させる取組を行っていく中でコスト削減は困難である。	維持	前年の実績で、飲食店において、周遊観光券の換金実績が高いという結果があり、より利用しやすい制度になるよう見直す。このことで、観光客の周遊性を向上させ、市内における観光客による消費額の増加につながるよう検討する。	例年並みで要求予定である。	維持	新規事業としてスタートしたばかりであるため、様々な改良を加えることにより、市内における観光消費額の増進につながるものと考え。	

【Plan】計画 / 【Do】実施																	【Check】評価 / 【Action】改善														
施策名	事業名	事業・取組概要	事業評価の活動指標(目標・実績)									事業評価の成果指標(目標・実績)						H29年度			H30年度			事業成果の評価		予算・コストの評価		見直しの方向性(担当者評価)			
			指標名等			H29年度			H30年度			指標名等			H29年度			H30年度			決算額(千円)	予算額(千円)	決算額(千円)	成果向上余地はあるか	評価の理由	コスト削減余地はあるか	事業評価	1次評価(担当者評価)		2次評価	
			指標	単位	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	指標	単位	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	事業評価	評価の理由								R2年度予算要求の方向性	所属長評価		
観光の振興	伊万里ブランド販売促進事業	<p>◎伊万里フェアの開催 福岡都市圏や首都圏、関西圏のホテルにおいて、伊万里産の食材を使用した限定メニューを伊万里焼の器で提供する「伊万里フェア」を開催する。</p> <p>◎伊万里焼のPR 福岡都市圏の商業施設等において、伊万里焼のテーブルコーディネートや伊万里焼風鈴の展示販売を行う。</p> <p>◎その他 伊万里牛喰道楽の開催など、本市の特産品を活用した事業を展開する。</p>	伊万里フェアの開催	ヶ所	3	6	200%	3	4	133%	伊万里フェアの開催ヶ所数	ヶ所	3	6	200%	3	4	133%	6756	4862	2637	低	成果指標の目標は達成しており、さらなる成果向上の余地は少ない。	なし	現状のコスト内で考えうる可能な限り効果的なPRを実践しており、さらなる成果向上の手段はない。	維持	地域経済の活性化と産業振興を図るため、引き続き伊万里ブランドの販促促進に積極的に取り組んでいく必要がある。	例年並みで要求予定である。	維持	引き続きフェア開催に係る費用を要求するとともに、効率的・効果的なPRの手法を検討していく。	
観光の振興	グリーン・ツーリズム推進事業	<p>1. 都市農村交流支援員の配置 グリーン・ツーリズムの推進を図るため生産者や農業団体等との連絡調整を行う。</p> <p>2. 伊万里グリーン・ツーリズム推進協議会への支援 都市住民と農山漁村との交流人口の拡大を図るために事業を展開する伊万里グリーン・ツーリズム推進協議会の活動を支援するため、補助金を支出する。</p>	補助金の交付	千円	930	930	100%	1850	1620	88%	グリーン・ツーリズムインストラクター認定者数	人	27	22	81%	27	23	23%	930	1850	1620	低	グリーン・ツーリズム活動に特化した団体への補助金の支出により事業を推進していることから、市が取り組む範囲内での成果向上は少ない。	なし	グリーン・ツーリズム活動に特化した団体への補助金の支出により事業を推進していることから、現状のコスト内で成果を上げる手法はない。	廃止	現在進行している民事訴訟の終結に伴い、現協議会は解散し、新たな組織へ移行を図る予定である。	協議会への補助金は廃止する。	廃止	これまで培ってきたグリーン・ツーリズムに関する人的資産等をさらに発展させる新体制に向けて検討を重ねていく。	
観光の振興	明治維新150年記念「伊万里市の日」開催事業	肥前さが幕末維新博の開催に伴い、伊万里で生まれた菓子王 森永太郎の功績を顕彰するとともに伊万里の製菓業のPRを行う「伊万里お菓子まつり」を開催する。	「伊万里お菓子まつり」の開催	来場者数	-	-	-	5000	5000	100%	来場者数	-	-	-	5000	5000	100%	-	1200	1086	低	平成30年度限りの事業であり、無事成功に結び付けることができたため、これ以上の成果工場は少ない。	なし	平成30年度限りの事業であり、すでに完了しているためコスト削減の余地はない。	完了	今後執行予定無し	今後執行予定無し	完了	今後執行予定無し		